

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-082890

(43)Date of publication of application : 25.03.1994

(51)Int.Cl.

G03B 17/02

(21)Application number : 04-232101

(71)Applicant : OLYMPUS OPTICAL CO LTD

(22)Date of filing : 31.08.1992

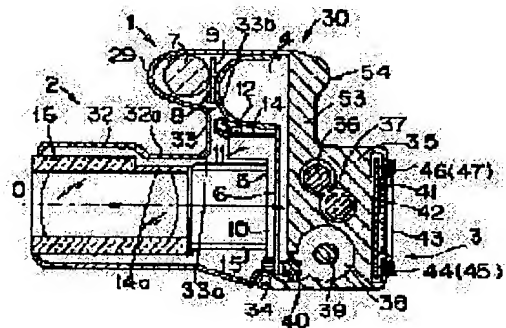
(72)Inventor : ONDA HIROKI
NARUSE MUTSUMI
WATARAI KAZUHIKO

(54) CAMERA

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a camera capable of surely controlling a grip and preventing camera jiggle as little as possible by enhancing stability at the time of holding a camera.

CONSTITUTION: The camera is equipped with an opening part 6 arranged in a camera main body 2 and forming the photographic picture frame of a film, a lens-barrel 16 arranged in front of the opening part 6 and extended to the front of the camera main body 2, a projecting part 35 arranged in the rear of the opening part 6, a grip part 30 disposed on one side surface of the projecting part 35, having the rear end surface in more front than the rear end surface of the projecting part 35 and held by one hand fingers of a photographer at the time of photographing and a recessed part 30 provided within a range opposite to the grip part 30 and encroaching on the inner peripheral side of the lens-barrel 16.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

25.08.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-82890

(43)公開日 平成6年(1994)3月25日

(51)Int.Cl.⁶

G 0 3 B 17/02

識別記号

庁内整理番号

7513-2K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全 9 頁)

(21)出願番号 特願平4-232101

(22)出願日 平成4年(1992)8月31日

(71)出願人 000000376

オリンパス光学工業株式会社
東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号

(72)発明者 恩田 博喜

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンパス光学工業株式会社内

(72)発明者 成瀬 睦己

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンパス光学工業株式会社内

(72)発明者 渡来 一彦

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンパス光学工業株式会社内

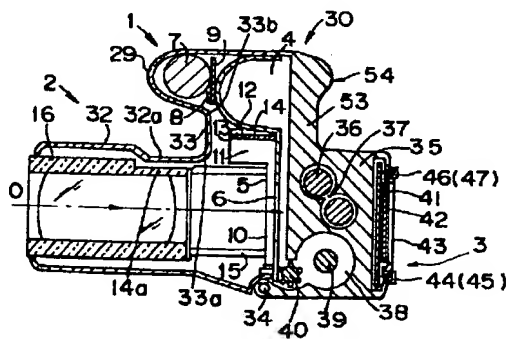
(74)代理人 弁理士 伊藤 進

(54)【発明の名称】 カメラ

(57)【要約】

【目的】グリップの把握をより確実にし、カメラを保持する際の安定性を高めることで手ブレを極力防止することができるカメラを提供することを目的とする。

【構成】カメラ本体2内に配置され、フィルムの撮影画面を形成する開口部6と、この開口部6の前方に配置され、カメラ本体2の前方に向かって延出するレンズ鏡筒16と、上記開口部6の後方に配置された突出部35と、この突出部35の一方の側面に配置され、該突出部35の後端面より前方に後端面を有する、撮影時に撮影者の一方の手指により把持されるグリップ部30と、上記レンズ鏡筒16の外壁32外周の、該グリップ部30にほぼ対向する範囲に設けられ、レンズ鏡筒16の内周側に食い込む凹部32aとを具備したものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】カメラ本体内に配置され、フィルムの撮影画面を形成する開口部と、

この開口部の前方に配置され、カメラ本体の前方に向かって延出するレンズ鏡筒と、

上記開口部の後方に配置された突出部と、

この突出部の一方の側面に配置され、該突出部の後端面より前方に後端面を有する、撮影時に撮影者の一方の手指により把持されるグリップ部と、

上記レンズ鏡筒の外壁部外周の、上記グリップ部にほぼ対向する範囲に設けられ、レンズ鏡筒の内周側に食い込む凹部と、

を具備したことを特徴とするカメラ。

【請求項2】上記突出部の内部には、フィルム巻上装置が配置されていることを特徴とする、請求項1記載のカメラ。

【請求項3】上記突出部の上部には、ファインダ光学系の接眼レンズが配置されていることを特徴とする、請求項1記載のカメラ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、カメラ、詳しくは、カメラの外形形状に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、カメラを撮影者の手指により支持していた撮影を行う場合には、手ブレが発生し易く、また、カメラの形状によっては持ちにくく疲れ易いという問題点があった。

【0003】また、撮影レンズをズーム光学系にした場合、レンズ鏡筒自体が重いので上記問題点はさらに増大する。

【0004】上記問題点を解消する技術手段として、特開平4-29226号公報にはホールド性を改善したカメラが提案されている。

【0005】このカメラは、カメラ本体内に配置され、フィルムの撮影画面を形成する開口部と、この開口部の前方に配置され、カメラ本体の前方に向かって延出するレンズ鏡筒と、上記開口部の後方に配置された突出部と、この突出部の一方の側面に配置され、該突出部の後端面より前方に後端面を有する、撮影時に撮影者の一方の手指により把持されるグリップ部と、上記突出部の他方の側面に、上記レンズ鏡筒の側面とほぼ平坦になるように形成された平面部とをカメラに設け、カメラを一方の手指より把持した際に腕が身体より離れないようにするとともに、ファインダ光学系を覗いた場合に手指が顔面に当たらないようにし、また、他方の手指を添えた場合にもホールド性を良くするようにしたものである。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述し

たような従来のカメラでは、カメラを保持する際にグリップ部を把握した手指の先端が該グリップ部とレンズ鏡筒により形成される空隙に配置されることになる。このため、たとえば、高ズーム比のレンズ、またはFNo.の明るいレンズが装着されたカメラではレンズ鏡筒の径が太くなるために上述の空隙が狭くなり、グリップ部の把握時に手指の先端が入りにくくなるという問題点を生じる。また、小径パトローネを用いる仕様のカメラにおいても、パトローネ室の径が小さくなってグリップ部がレンズ鏡筒側へ接近するため、同様に上記空隙が狭くなり、グリップ部の把握時に手指の先端が入りにくくなるという問題点を生じる。一方、カメラを小型化するためにグリップ部カメラ本体側に近づけようとしても上記空隙が狭くなり、同様な不具合が生じることになる。

【0007】これによりカメラの保持性が幾分損なわれており、カメラを保持する際の安定性向上による手ブレ等の撮影ミスの減少、および持ち易く疲れにくいという利点が十分に発揮できていなかった。

【0008】本発明はかかる問題点に鑑みてなされたものであり、グリップの把握をより確実にし、カメラを保持する際の安定性を高めることで手ブレを極力防止することができるカメラを提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段および作用】上記の目的を達成するために本発明によるカメラは、カメラ本体内に配置され、フィルムの撮影画面を形成する開口部と、この開口部の前方に配置され、カメラ本体の前方に向かって延出するレンズ鏡筒と、上記開口部の後方に配置された突出部と、この突出部の一方の側面に配置され、該突出部の後端面より前方に後端面を有する、撮影時に撮影者の一方の手指により把持されるグリップ部と、上記レンズ鏡筒のグリップ部外周の、該グリップ部にほぼ対向する範囲に設けられ、レンズ鏡筒の内周側に食い込む凹部とを具備したものである。

【0010】

【実施例】以下、図示の実施例に基づき本発明を詳細に説明する。

【0011】図1乃至図11は本発明の第1実施例を示す説明図である。

【0012】図1は上記第1実施例のカメラを示した平面図である。

【0013】カメラ1は、図2の水平断面図にて示すようにカメラ本体2と、このカメラ本体2に対し開閉自在にされた裏蓋3とに分割される。

【0014】カメラ本体2の後部にはフィルムパトローネ収納室4を形成する後板5が配置されており、この後板5にはフィルムの撮影画面を規定する開口6が穿設されている。

【0015】上記フィルムパトローネ収納室4の前面には後述する閃光発光器のコンデンサ7が配置され、この

コンデンサ7とフィルムパトローネ収納室4との間にはIC等の電気部品8を指示するプリント基板9が配置されている。

【0016】上記後板5の前部には公知のシャッタ機構10が配置されており、また、このシャッタ機構10の駆動機構11とフィルムパトローネ収納室4の壁面12との間にはIC等の電気部品13を支持するプリント基板14が配置されている。

【0017】上記シャッタ機構10の前面には後述するミラーボックス15が配置され、さらにこのミラーボックス15の前部にはレンズ鏡筒16が配置されており、このレンズ鏡筒16の光軸Oは、上記開口6の中心と一致している。

【0018】ミラーボックス15内には、図3の垂直断面図にて示すようにメインミラー17が配置されており、さらにミラーボックス15の上方にはファインダースクリーン18が本体2に対して略水平に配置されている。

【0019】このファインダースクリーン18は、フィルム面と光学的に共役な位置になるように調整される。

【0020】上記カメラ本体2の、ミラーボックス15の上部には、裏蓋3の上方に膨出部19が形成されている。

【0021】この膨出部19の内部にはプリズム20が、その後方にダハミラー21が設けられ、さらにダハミラー21の後方下部には平面ミラー22が、その後方には接眼レンズ23が配置され、これらはファインダー光学系24を構成している。

【0022】プリズム20は上記ファインダースクリーン18に光学入射面を向け、射出面をダハミラー21に向けられている。

【0023】このダハミラー21の射出面は平面ミラー22に、平面ミラー22は接眼レンズ23に向けられている。

【0024】撮影光束はレンズ鏡筒16を透過してメインミラー17により上方に反射され、ファインダースクリーン18上に結像する。

【0025】この像はプリズム20、ダハミラー21、平面ミラー22により正立像に変換され、接眼レンズ23を介してカメラ1の後方に射出され、撮影シャーシにより観察可能にされる。

【0026】上記メインミラー17は、撮影シャーシの観察時には図3に示す位置にあって上述したように撮影光束をファインダー光学系に導き、撮影時には不図示の駆動機構により上記ファインダースクリーン18と略重なる位置に跳ね上がって、上記撮影光束を上記開口6を介してフィルム面に導く。

【0027】上記プリズム20の前方の、カメラ本体2の外壁近傍には軸25が設けられ、これに閃光発光器26が、図3に示すように外壁形状がカメラ本体2の外壁

形状とほぼ一致する閉位置と、図4の垂直断面図に示すようにカメラ本体2の上方に略直立する開位置とに、開閉自在に軸支されている。

【0028】閃光発光器26が図4に示すような開位置にある場合にカメラ1の前方に向く面の上方に第1発光手段27が、下方には第2発光手段28がそれぞれ配置されており、これら第1発光手段27、第2発光手段28はそれぞれ上記コンデンサ7により電源を供給されると共に、不図示の制御回路により発光を制御される。

【0029】上記コンデンサ7の前面及び側面の外周はカメラ本体2の外壁29により覆われていて、撮影者が手指により把持するグリップ部30のグリップ前半部31を形成する。

【0030】このグリップ前半部31はその前面において、図5の側面図にて示されるように、上端部から下端部にいくに従いカメラ1の前方に膨出し、斜面を形成する。

【0031】また、上記シャッタ機構10の駆動機構11及びプリント基板14は、フィルムパトローネ収納室4の壁面12とミラーボックス15との空間に配置されているが、この空間は、フィルムパトローネより搬出されるフィルムの巻癖を開口6に至るまでの間に平面に直すために必要な空間である。

【0032】さらにシャッタ機構10の駆動機構11及びプリント基板14の前方は、上記グリップ部30の前半部31とレンズ鏡筒16の外壁32との間を連結する、上記前半部31より後退した連結壁33により覆われている。外壁32にはグリップ前半部31に対向する部分が切欠かれて、グリップ部30側からみて光軸方向に後退して凹部32aを形成しており、これに対応してレンズ鏡筒16の後半部14aも径方向に小さくなっている。上記外壁32は連結壁33とグリップ内壁31aとに曲面33a、33bを介して一体的に構成されており、この外壁32とグリップ内壁31aとにより覆われる空隙にグリップ把握時の手指の先端が回り込むようになっている。

【0033】上記連結壁33は、撮影者がグリップ部30を把持した際に親指以外の手指の先端が回り込むように構成される。

【0034】裏蓋3は、図2に示すようにカメラ本体2に設けられた軸34により、カメラ本体2に対して開閉自在に軸支されている。

【0035】この裏蓋3の上記開口6の後方に位置する部分に、カメラ1の後方に向って突出する突出部35が設けられている。

【0036】この突出部35の内部には、電源電池36が収納される電池収納室37と、撮影済みのフィルムを巻上げるためのフィルム巻上室38と、このフィルム巻上室38内に設けられたモータ等の駆動源により回転駆動されるフィルム巻上スプール39及びスプロケット4

0が設けられている。

【0037】さらに上記突出部35の内部の後端には、上記プリント基板9、14と不図示のフレキシブルプリント基板等の電気結線により接続されたプリント基板41が設けられている。

【0038】このプリント基板41の後面には、フィルム残り駒数、フィルム撮影済み駒数、シャッタ速度、絞り値、露出補正量等の各種の撮影情報を表示する液晶表示板（以下LCDと略称する）42が電氣的に接続される。

【0039】このLCD42は突出部35の後端面に固定された透明な保護パネル43を介し、上記各種撮影情報をカメラ1の後方に向けて表示する。

【0040】上記プリント基板41は上記LCD42、保護パネル43よりも幅広にされており、この幅広にされた部分には、図6の背面図にて示すようにLCD42、保護パネル43の側方に設けられた操作釦44乃至47により開閉されるスイッチが設けられている。

【0041】これらスイッチは例えば露出モード変更、露出補正設定等の通常頻繁に使用される撮影動作を設定、選択するものであり、上記操作釦44乃至47を撮影者が適宜操作することにより、カメラ1の各種の撮影動作を変更、制御することができる。

【0042】さらにLCD42の下方には突出部35に対して開閉自在にされた開閉板52が設けられ、この開閉板52を開くと、頻繁には使用しない撮影動作、例えばフィルム終了以前の巻戻動作やフィルムに写込むデータの変更等を設定、選択するスイッチ部材がカメラの外方に露呈するようになっている。

【0043】裏蓋3の、上記フィルムパトローネ収納室4の後方部分は、突出部35よりも前方に後端面を形成される薄肉部53は、ここに手指の内の親指を置いて、親指が突出部35よりも後方に突出しないような寸法に形成されている。

【0044】この薄肉部53の側方は、上記グリップ部30に連続し、該グリップ部30の後半部54を形成している。

【0045】この後半部54はその後面において、図5の側面図にて示されるように、下端部から上端部にいくに従いカメラ1の後方に膨出し、傾斜面を形成する。

【0046】上記後半部54の下端は、上記薄肉部53と同一平面に形成され、上端はこの平面により後方に突出し、グリップ部30が撮影者により把持された際に、撮影者の手指の内の親指が掛かるようになっている。

【0047】次に図1に示す平面図を用いて本実施例におけるカメラ1の外観各部を説明する。

【0048】カメラ本体2の上面の左後方には電源スイッチ55が配置され、これをカメラ1の前方に向けてスライドすることによりカメラ1の電源がオンされる。

【0049】また、レンズ鏡筒16をカバーする外壁3

2の右側面には、一对のズーム操作釦56、57が設けられており、レンズ鏡筒16は該操作釦56を押動することにより長焦点側に、上記操作釦57を押動することにより短焦点側にズームされる。

【0050】グリップ部30の上面前部にはリリース釦58が配置され、これを押動することにより撮影動作が開始される。

【0051】閃光発光器26の向かって右側面には、操作されることにより閃光発光器26を開状態にする操作ノブ59が設けられている。

【0052】次に本実施例におけるカメラ1の作用を説明する。

【0053】まず、カメラの電源スイッチをオンし、撮影に先立ちカメラ1内にフィルムを装填するために不図示の裏蓋係止機構を解除し、図7の水平断面図にて示すように、カメラ本体2に対して裏蓋3を開状態にする。

【0054】そして、フィルムパトローネ収納室4にフィルムパトローネ60を挿入し、このフィルムパトローネ60の開口より延出したフィルム61の先端を軸34の近傍に置く。

【0055】このまま裏蓋3をカメラ本体2に対して閉じると、不図示の裏蓋閉動作検知手段によりこの閉動作が検知され、スプロケット40が図7中、反時計方向に回転を始める。

【0056】この回転によりスプロケット40とフィルム61のパーフォレーションが噛み合い、フィルム61の先端が、フィルム巻上室38内に配置されたフィルム巻上スプロケット39の前方に送り込まれる。

【0057】スプロケット40の回転開始より一定時間経過後に、フィルム巻上スプール39が時計方向に回転を始め、フィルム61の先端がフィルム巻上スプール39に巻き取られる。

【0058】これと同時にスプロケット40は駆動源と切り離され、これから後スプロケット40はフィルム61の巻上に従動して回転し、この巻上量を回転により検知する部材となる。

【0059】本実施例においては、電源スイッチをオンした後にフィルムを装填したが、カメラ内のCPUにより実行されるプログラムを調整し、電源スイッチをオンしなくとも、裏蓋閉動作によりフィルム装填動作が開始されるようにしても良いことは勿論である。

【0060】撮影時には図8に示す斜視図にて示すように、カメラ1の上記グリップ部30を右手の手指にて把持し人差し指を上記リリース釦58に添えると共に、左手の手指を上記レンズ鏡筒16の外壁32に添え、丁度親指が上記ズーム操作釦56、57の近傍を軽く押さえるようにする。

【0061】撮影を行なう場合はリリース釦58を押下し、撮影シーケンスを実行すれば良く、また、レンズ鏡筒16の焦点距離を変化させる場合はズーム操作釦5

6, 57を逐次操作すれば良い。

【0062】このようにカメラを構成することにより、図9に示すようにグリップ部30を把握した手指の先端がグリップ内側に十分回り込んでしっかりとホールドすることができ、また図10に示すように、接眼レンズ23を覗く場合にも右手の親指等が突出部35より後方にはみ出すことがない。これにより右手の親指等が顔面に当たることなく快適な撮影が行なえる。

【0063】また、左手はレンズ鏡筒16の外壁32に添えられるが、この場合にも、図12に示す従来のカメラのようにカメラ1の外壁の底面が左手の手首と当たらず、ホールディングへの支障はまったく無くなる。なお、図12中、符号100, 101, 102, 103は、それぞれカメラ本体、グリップ部、撮影レンズ、レンズ鏡筒を示す。

【0064】さらに、グリップ部30と反対側の外壁が平坦になるので、図11に示すようにグリップ部30を上方にしてカメラを縦に構えると、この平坦な部分が下になり左手の掌による支持が安定する。

【0065】このような第1実施例によれば、グリップの把握をより確実にし、カメラ保持時の安定性を高めることで手ブレを極力防止することができ、グリップ部を把握している親指等が、顔面に当たることがないので快適に撮影を行なうことができる。さらにファインダー光学系をのぞく動作がスムーズになるという効果を得ることもできる。

【0066】図13は本発明の第2実施例のカメラを保持した際の様子を上方から示した平面図である。

【0067】この第2実施例のカメラは、上記第1実施例における外壁32の凹部32aをグリップ把持時に回り込んでくる手首の角度に略平行としてテーパー状に形成して凹部32a'とし、連結壁33を手指先端形状に合わせて円筒面として形成したものである。これにより、グリップ部30をより確実に保持することができる。その他の構成・作用・効果は上記第1実施例と同様であるのでここでの説明は省略する。

【0068】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、グリップの把握をより確実にし、カメラを保持する際の安

定性を高めることで手ブレを極力防止することが可能なカメラを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例のカメラを示した平面図である。

【図2】上記第1実施例のカメラの水平断面図である。

【図3】上記第1実施例のカメラの、閃光発光器が閉時のときの垂直断面図である。

【図4】上記第1実施例のカメラの、閃光発光器が開時のときの垂直断面図である。

【図5】上記第1実施例のカメラをグリップ部側から見た側面図である。

【図6】上記第1実施例のカメラを後面側から見た背面図である。

【図7】上記第1実施例のカメラの、裏蓋を開状態にしたときの水平断面図である。

【図8】上記第1実施例のカメラの、撮影時における保持状態を示した斜視図である。

【図9】上記第1実施例のカメラを保持した際の様子を上方から示した平面図である。

【図10】上記第1実施例のカメラを保持した際の様子を示した側面図である。

【図11】上記第1実施例のカメラを縦にして保持した際の様子を示した側面図である。

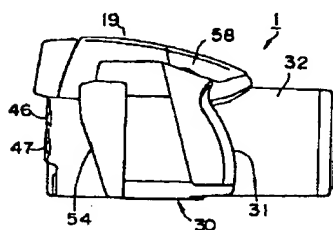
【図12】従来の1カメラの、撮影時における保持状態を示した斜視図である。

【図13】本発明の第2実施例のカメラを保持した際の様子を上方から示した平面図である。

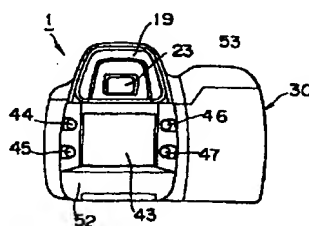
【符号の説明】

- 1…カメラ
- 2…カメラ本体
- 6…開口部
- 16…レンズ鏡筒
- 30…グリップ部
- 31…グリップ前半部
- 32…外壁
- 32a…凹部
- 33…連結壁
- 35…突出部

【図5】



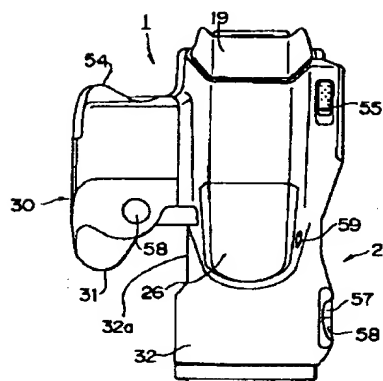
【図6】



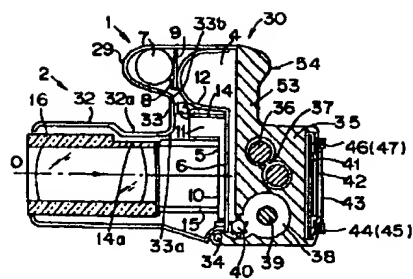
【図10】



【図1】



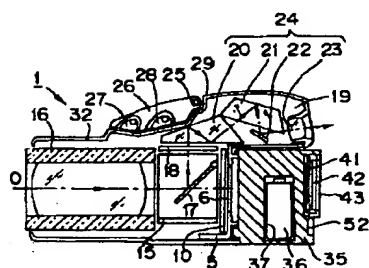
【図2】



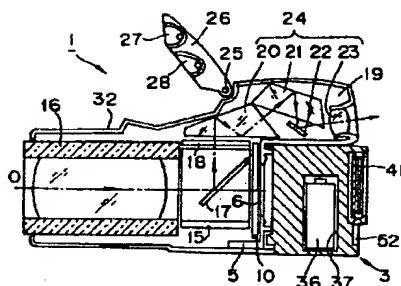
【図11】



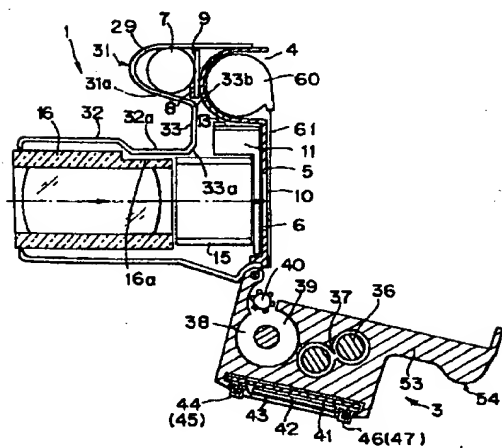
【図3】



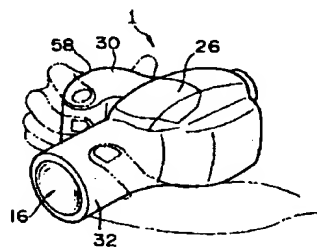
【図4】



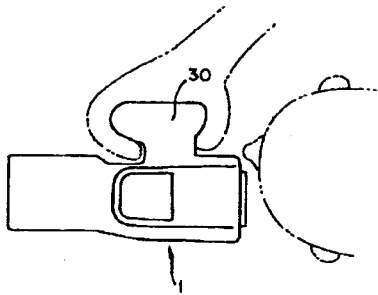
【図7】



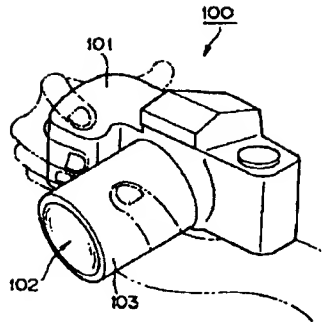
【図8】



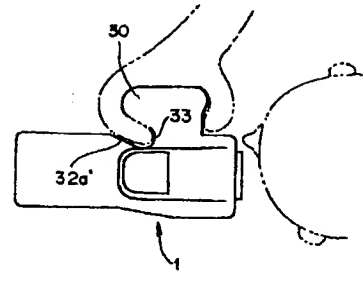
【図9】



【図12】



【図13】



【手続補正書】

【提出日】平成5年8月18日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正内容】

【0011】図1乃至図10は本発明の第1実施例を示す説明図である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正内容】

【0015】上記フィルムパトローネ収納室4の前面には後述する閃光発光器のコンデンサ7が配置され、このコンデンサ7とフィルムパトローネ収納室4との間にはIC等の電気部品8を支持するプリント基板9が配置されている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正内容】

【0025】この像はプリズム20、ダハミラー21、平面ミラー22により正立像に変換され、接眼レンズ23を介してカメラ1の後方に射出され、撮影者により観察可能にされる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正内容】

【0026】上記メインミラー17は、撮影者の観察時

には図3に示す位置にあって上述したように撮影光束をファインダー光学系に導き、撮影時には不図示の駆動機構により上記ファインダースクリーン18と略重なる位置に跳ね上がって、上記撮影光束を上記開口6を介してフィルム面に導く。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正内容】

【0041】これらスイッチは例えば露出モード変更、露出補正設定等の通常頻繁に使用される撮影動作を設定、選択するものであり、上記操作部44乃至47を撮影者が適宜操作することにより、カメラ1の各種の撮影動作を変更、制御することができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正内容】

【0043】裏蓋3の、上記フィルムパトローネ収納室4の後方部分は、突出部35よりも前方に後端面を形成される薄肉部が設けられている。この薄肉部53は、ここに手指の内の親指を置いても、親指が突出部35よりも後方に突出しないような寸法に形成されている。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正内容】

【0063】また、左手はレンズ鏡筒16の外壁32に添えられるが、この場合にも、図11に示す従来のカメラのようにカメラ1の外壁の底面が左手の手首と当たら

ず、ホールディングへの支障はまったく無くなる。なお、図11中、符号100、101、102、103は、それぞれカメラ本体、グリップ部、撮影レンズ、レンズ鏡筒を示す。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正内容】

【0064】さらに、グリップ部30と反対側の外壁が平坦になるので、グリップ部30を上方にしてカメラを縦に構えると、この平坦な部分が下になり左手の掌による支持が安定する。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0066

【補正方法】変更

【補正内容】

【0066】図12は本発明の第2実施例のカメラを保持した際の様子を上方から示した平面図である。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図11

【補正方法】変更

【補正内容】

【図11】従来の1カメラの、撮影時における保持状態を示した斜視図である。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図12

【補正方法】変更

【補正内容】

【図12】本発明の第2実施例のカメラを保持した際の様子を上方から示した平面図である。

【手続補正12】

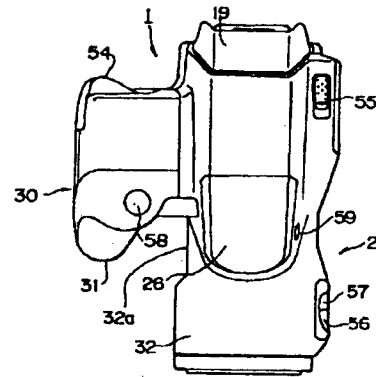
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正内容】

【図1】



【手続補正13】

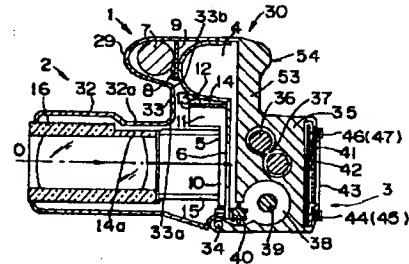
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

【補正方法】変更

【補正内容】

【図2】



【手続補正14】

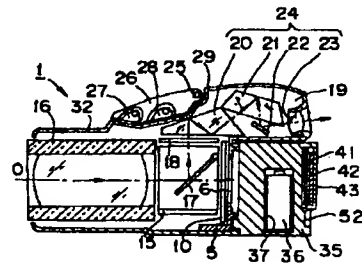
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図3

【補正方法】変更

【補正内容】

【図3】



【手続補正15】

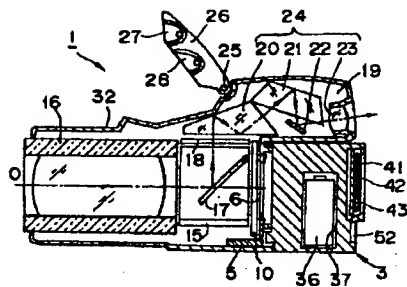
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図4

【補正方法】変更

【補正内容】

【図4】



【手続補正16】

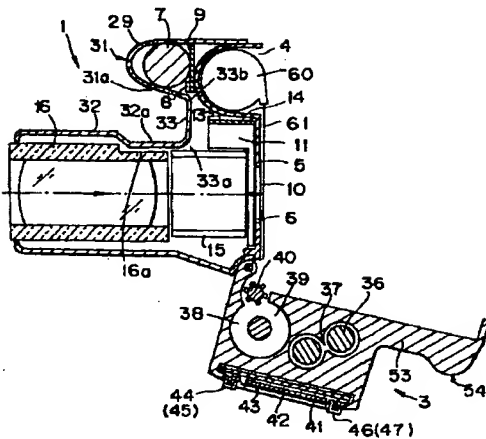
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図7

【補正方法】変更

【補正内容】

【図7】



【手続補正17】

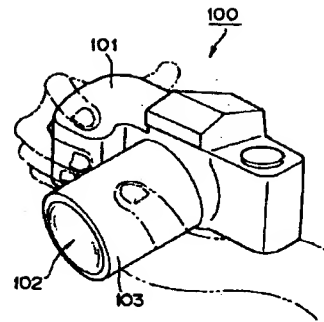
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図11

【補正方法】変更

【補正内容】

【図11】



【手続補正18】

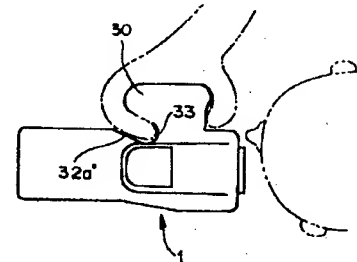
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図12

【補正方法】変更

【補正内容】

【図12】



【手続補正19】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図13

【補正方法】削除